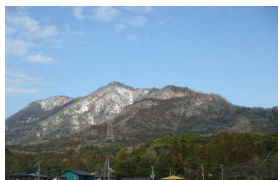


青郷小だより

令和4年 2月号
高浜町立青郷小学校



勉強を教える必要は



青葉山の残雪が様々な雪形を見せるようになり、時折の日差しに、少しずつ春の訪れを感じるようになりましたが、まだ厳しい寒さが続いています。

風雪が強かった朝、登校してきた女の子が傘を持って、話しかけてきました。

「先生、この傘閉じることができないので、学校で捨ててもらえませんか。」

「どうしたの？」

「学校に来る途中、突然の強風に傘の骨が負けてしまいました。」

「ちょっと見せて、直せるかも・・・」

「先生、多分無理です。傘を支える根元の骨が折れているので。」

「そうか、でも今日の帰り、困るなあ・・・」

「大丈夫です。予備の折りたたみ傘を持っていますから。」

その子は、わずかな会話で、出来事から解決策までしっかりと説明しました。結局、私は何の力にもなりませんでした。

以前に読んだことがある 柳沢 幸雄 氏 のお話をご紹介します

元 開成中学校・開成高等学校 校長
現 東京大学名誉教授
ハーバード大学 ベストティーチャー

子どもの力を伸ばすために ぜひやってほしいこと

「子どもに シャベらせること」

今まで見てきた優秀な子どもに 必ず共通すること それは
「きちんと シャベれること」

きちんとシャベるためには 相手に伝えたいことを 伝える能力が必要
その能力が 「論理」
シャベる力をつけるために 必要なことは とにかくシャベらせること
できる子は 必ず親に よく話を聞いてもらっている

「いつ どこで 誰が 何を なぜ どのようにしたか」
親は 子どもが話を始めたら 話を広げる問いかけをしながら
じっくりと話を聞いてやる これだけでいいんです これができれば
親は 子どもに 勉強を教える必要はありません

さらに もう一つ ぜひやってほしいこと

「子どもを ほめること」

ほめるポイントは 具体的に 「垂直で比較してほめる」こと
決して人と比べてほめるのではなく 目に見える成果が出ていなくても
以前と比べて 少しでも できるようになったことをほめる
「あなたの努力を ちゃんと見ているよ」これが伝われば
子どもは 自分で努力し 練習したり学習したりするようになります
親は 子どもに 「～しなさい」と言う必要はありません



この間の休み時間、体育館でなわとびの練習をしていた男の子に
「すごい、二重跳びができるようになったんや。」と声をかけたら、
「何言っとん。去年からできるで。今年はハヤブサに挑戦してるんやで。」
と言われました。
「垂直で比較してほめる」ことができるように、毎日、もっとしっかりと子ども達のことを見ていこうと反省しました。

自転車に乗る時は ヘルメット着用を



ずいぶん前に別の学校で、生徒が自転車に乗っていて衝突事故に遭いましたが、ヘルメットを着用していたため、けがをせずに済んだということがありました。念のために受診した病院では、「ヘルメットを着用していなかったら、間違いなく入院するぐらいの重傷だったでしょう。」と言われました。その時のヘルメットは大きなひびが入っていました。
道路交通法では、13歳未満の子どもが自転車に乗る時は、ヘルメットの着用努力義務があるとされています。
お子様の安全のために、ぜひヘルメットの着用について、ご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

今後の 行事等予定

今後の行事等を下記のように予定しています。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、実施方法や内容を変更することがあります。ご了承ください。

2月19日(土)	学習発表会
2月21日(月)	振替
3月9日(水)	6年生を送る会
3月18日(金)	卒業証書授与式
3月24日(木)	修了式



※ 子ども達の学校生活の様子をブログでも紹介しています。
ぜひ、ご覧ください。



〈 <http://seikyo.takahama-town.com/> 〉

学校ブログ〈QRコード〉